

第2回能代・山本地域医療構想調整会議 議事要旨

- 1 日時 令和8年2月27日（金） 午後6時から午後8時まで
 2 場所 オンライン会議
 3 出席委員 委員18名中16名出席（代理出席者を含む）

氏名	役職等	氏名	役職等
楊 国 隆	能代市山本郡医師会長	大 塚 博 徳	地域医療機能推進機構 秋田病院長
太 田 原 康 成	能代厚生医療センター病院長	加 藤 裕 治 郎	能代山本医師会病院長
郡 司 啓 文	島田病院長	大 淵 宏 道	森岳温泉病院長
小 林 聡	能代市・山本郡歯科医師会長	佐 藤 悠 太	秋田県薬剤師会能代山本支部幹事
鈴 木 輝 子	秋田県看護協会能代・山本地区理事	齊 藤 亜 紀 子	全国健康保険協会秋田支部業務部長
岩 村 庄 英	特別養護老人ホーム「もりたけ」施設長	門 田 真	藤里町地域包括支援センター所長
細 田 孝 広	藤里町町民課長	大 高 博 充	三種町健康推進課長
菊 地 俊 平	八峰町福祉保健課長		

4 議事等

(1) 報告事項

① 年末年始における救急医療の実施状況について

【事務局】

（資料により説明）

【能代市山本郡医師会長】

・年末年始の救急医療提供体制について、具体的に例えば財政的な支援とか補助とかそういうものはあるか。

【県医務薬事課長】

・コロナの時と違いますので、直接の補助はなかなか難しいと思っている。
 ・ですが、県としては#7119 の電話相談窓口を来年度に設置いたしまして、休日は24時間、夜間は夕方7時から翌朝8時まで、医療機関があまり開いていない時間帯の相談ができるような体制を取りたいということで今県議会に要求している。

【JCHO 秋田病院長】

・今回の大雪で、実際に北秋田市民病院がもう入院できないとか、当院ももう入院できないという状況に1週間ぐらい陥ったので、その中で病床を減らしていくという方向性について検討が必要。
 ・今回のような災害級の大雪等の場合、病床数を減らしていくことに関して本当にそれが正しいのかどうかという話し合いの元になることなので、こういう災害級のことが起きた時にベッドを減らしていった時にこの地区がどうなるのかというのはしっかり今回のようなアンケートを取って、把握しておくべきと考える。

【県医務薬事課長】

・ 県として、年末年始のアンケートについては、皆様のご意見から始めたばかりのものなので、来年度も実施をしたいと思っている。今回のご意見を踏まえて分析の際に参考にさせていただきたい。

②現地域医療構想の振り返りについて

【事務局】

(資料により説明)

【能代厚生医療センター長】

・ 最後のスライドの解決できていない主な課題に、県が旗振り役になり、議論を進めていく必要があるという言及があるが、どういった旗振りを想定しているのか。
・ 今年度の予算でこの地域医療連携推進法人に対する補助として 400 万円の 1/2 補助ということがあった。旗振り役になって積極的に推進していくという立場からは、そこはもっともっと強化して行ってほしいし、旗振り役として色々なことをやってほしいので、その具体的なお考えをお伺いしたい。

【県医務薬事課】

・ 現行の医療構想については基本的には各医療機関の自主的な取り組みをしていただくということで、国の方で医療介護総合確保基金等を使ったインセンティブのような支援を用意して自主的に進めていただく形であった。
・ 新たな地域医療構想の策定にあたっては、県が各地域に病院の役割分担について複数の案を提示して、それに基づいて地域で議論して決めていただくという枠組みになっているので、それを「旗振り役」というような表現をしている。

(2)協議事項

①令和7年度外来機能報告について

【事務局】

(資料により説明)

※御意見等なし

②地域医療連携推進法人の認定について

【事務局】

(資料により説明)

【森岳温泉病院長】

・ 能代3病院は設立母体がみんなバラバラなので、これをまとめて進めるのは大変なことだと私は思う。なので、気合を入れて、みんな協力して、総論賛成・各論反対になり

がちだが、一つにしなければ共倒れなんだという強い気持ちをもって、頑張っていたきたい。

【JCHO 秋田病院長】

- ・我々3病院長間では、我々がその流れをしっかり作っておくことは10年後の医療を守っていくということに繋がるので、我々3人で医療を受ける病院を作るという気持ちで一致団結して頑張らなければいけないと意思確認をしている。
- ・本当に強い気持ちで各論を含めまとめていかなければいけないと考えているので、県の方もその意を汲んで協力していただきたい。
- ・この母体が違う3つの病院をまとめていくためには、どうしてもコンサルを入れるなどの作業が必要で、そこには必ず資金が必要ということになるので、できればそういう部分で公的資金も援助してもらえればと考えている。

【能代山本医師会病院】

- ・この法人に我々は本当にかけている。これによって各病院がWin-Winの関係になって、連携して良かったと思えるような活動をしていきたい。
- ・具体的には医療従事者の交流や、機能のコントロールをしていくとかをして、最終的には再編に向けてまず3つの病院が仲間意識を持ってやっていけるような状態にしていきたいなと思って本気でやっていきたい。

【能代厚生医療センター長】

- ・これまで公式、非公式にもたくさんの時間をかけて話し合いをしてきて、それがようやく形になってプラットフォームができるといった状態だと思う。
- ・加藤先生、大塚先生からも話があったが、ここからが本番だと思うので、県の皆様のご協力ご指導もいただきながらしっかりと進めていきたい。

③急性期拠点病院を中心とした複数の役割分担案について

【事務局】

(資料により説明)

【JCHO 秋田病院長】

- ・この案のとおり行けば、素晴らしいと思う。
- ・ただ、この分析は誰がやるのか。

【県医務薬事課】

- ・県でやるのはなかなか厳しいと考えているので、外部の専門のコンサルタント会社に依頼する予定。

【JCHO 秋田病院】

- ・そっちの方がいいと思う。
- ・医師の確保について、弘前大学、秋田大学、岩手医大ということを書いていたが、そこは今までは医師の招聘とかは院長の仕事で結構重要な仕事で頑張っていたが、それは県が率先してやるということによろしいのか。

【県医務薬事課】

- ・そこまではまだ決まってないが、例えば大学の方で将来的にどれくらい派遣できるのかというようなところの調査で何人確保できそうなのかというところは出せそうと考えているが、具体的にどこの病院からここに何人派遣できるのを確約するというようなところまでは難しいと思っている。

【JCHO 秋田病院長】

- ・この案の通りやりたいが、すごく難しい。
- ・新潟県は大学に県の職員が一緒に行って、どこに医者をどれだけ派遣してくれという活動を頑張っているので、そうするのかなと思っていた。
- ・当院は地域医療連携推進法人を作るにあたって M3 というコンサルに頼んでやっている。
- ・彼らの分析とアドバイスは完璧だと思っている。こういう患者をどこの病棟に移さない、リハビリはこの病棟でもう少しこれくらいやりましょう、そういう風な非常に細かい分析をやって経営を成り立たせているので、この経営分析ということは各病院が Win-Win になるためには非常に重要。
- ・そこには莫大なお金がかかる。コンサルには成功報酬で払っているが、成功報酬の 35% を渡している。多い時では月で、700 万円渡している。
- ・なので、それぐらいの覚悟がないとコンサルは入れられないが、そういう分析能力がないと計画通りすることはとても難しい。
- ・なので覚悟を持って、是非、県が立てたこの計画が進むように頑張っていたきたい。
- ・経営が少し苦しくなる病院があったり、県の言うことを聞く前までは黒字だったのに県の方針に従ったために赤字経営になるようなことも出てくる時にどういった保証をするかまで、踏み込まないと、県の思っている通りには行きにくい。
- ・地域医療連携推進法人の中でこれを進めていけば、厳しい状態になる病院、改善される病院も出てくると思うので、その保証をするという風になればよい。

【能代厚生医療センター長】

- ・私もこの案は素晴らしいと思うが、コンサルに何を頼むのか、どの範囲まで頼むのかというのが多分 100 人 100 様出てくるような感じだと思うので、ここは十分話し合いが必要だと思う。

【能代山本医師会病院長】

- ・大塚先生の言うようにうまくいかなかった時は補填・保証してくれるような県や国が制度を作ってくれればよいと思う。
- ・当院は消化器外科が診療報酬の半分以上を占めている。この構想の通りに集約して外科を例えば能代厚生医療センターに全部移してしまうと、当院が立ちゆかなくなる可能性があるのも、それまでの間に外科以外のところができるような体制を作っていくという必要がある。
- ・当院の外科医も年を取ってきおり、5年後の状況が不明であることから、大学からは当院には今後は若い医師をあまり送らないという方針になっている。
- ・能代厚生医療センターには送るといった話になっているので、その間に回復期の医療あるいは在宅の医療をもっともっと充実させていくというようなことをしていかないと、うちの職員を守れないと考えている。
- ・ある日突然、外科がパッと移るといのはなかなか難しいので、だんだん徐々に少しずつテーピングされていくような形になって、新しく急性期の拠点病院ができていくという風なイメージ。
- ・5年～10年ぐらいの間でそのようになっていく。当院は赤字が黒字になるようなことをしていかないといけないので、国や県からも支援をいただきながら、この3つの病院が全て Win-Win で黒字化していくというところを目指していきたい。

【島田病院長】

- ・当院は能代山本地域では唯一の精神単科病院なので、この特殊性と独自の利点を十分に生かして高齢化社会に貢献していきたい。
- ・総合病院に入院される高齢者の方、あるいは密かに認知症を持っている方等、総合病院では対応しきれないケースもあると思うので、そういった際には是非、私たちが全面的に引き受ける形で貢献していきたい。

【森岳温泉病院長】

- ・どこの病院も医者数を多く必要とするような医療内容になっているので、供給してもらえるかどうか地域において大切なこと。
- ・それを集約して秋田県全体を考えるのが県の役目という話があるが、やはり大学が一つ首を突っ込んで入ってもらって一緒に考えていく、大学でどのくらい対応できるのかということが基本にあって、これから20～30年のところで想定して手術も今の状況の延長で考えていくとすればどうなのかという答えが出てくると思うので、そういったことを頭に置きながら腹をくくって対応していかなければと思う。

【能代山本郡医師会長】

- ・医師会病院の現状として、外科系が中心の病院であることを踏まえて、5年後、10年後を考えていけなくちゃいけないということを理解していただければありがたい。
- ・医師会としては、一次救急・一次医療を支えているが、医師会としても会員数減少、

高齢化が進んでおり、20年前開業医数も50後半くらいあったが、最近では41診療所と2割以上は減っている。

・地域医療を支えていくべき診療所がどんどん減っていて、例えば小児科や産婦人科の医師がそろそろ危機的状況になってきている。産婦人科の先生が昨年1人開業してくれて頑張ってくれているが、これからもっと危ない状況が進んでいくと危惧している。

【能代市・山本郡歯科医師会長】

・このとおりに役割が振り分けられた時に、現在の能代山本医師会病院にある口腔外科があるのですが、なくなることはあるのでしょうか。

【県医務薬事課】

・具体的な診療科については分析の中で色々明らかになってくるかと思うが、分析を踏まえて外科系の診療科を集めた方がいいか、そこは来年度の分析結果を待つということになるので、現時点では明確にお伝えはできない状況である。

【県薬剤師会能代山本支部幹事】

・急性期拠点病院案、複数の役割分担が進んだとしても、変わらずに今まで通り地域のかかりつけ薬局としてや、在宅の推進を今後も進めていきたい。

・先ほどもお話にあった通り、地域医療連携推進法人が今後立ち上がっていくに当たって、3病院の病院薬剤師も今後、人事交流等情報共有していき、能代山本地域の医療が滞らないようにして、病院薬剤師としても連携していきたい。

【県看護協会能代山本地区理事】

・やはり看護師の確保が大変難しくなってきている。

・患者数の減少よりも看護師の減少の方が早いと感じる。

・また、薬剤師、臨床工学技士等の就職率も県内では低く、特に、臨床工学技士に関しては県内にそういう学校がないので、県外に流出する学生さん結構いる。一度県外に出た人はなかなか戻ってこない傾向にあるので、できれば大学について、県の方で何かしら対策を取っていただきたい。

【全国健康保険協会秋田支部】

・協会けんぽとしては、これから分析を進めていく上で、協会けんぽに加入している患者さんには限るが、患者の流出入や医療機関ごとの疾病分類といったデータを保有しているもので、提供が可能である。

【養護老人ホーム施設長】

・平時の高齢者施設等との協力体制について、本当に重度の方が入っている施設が多いので、日常的に協力体制が取れるかや、施設で看取る場合、医療的な協力がどこまで得られるのかといったところがかなり最近厳しくなってきている。

・開業医の減少により、大きな病院に頼らざるを得ない状況になってくると思うので、日常的に地域の先生方と高齢者施設等の協力体制をもう少し強化していく必要がある。

【藤里町地域包括支援センター所長】

・地域包括の立場としては、まず高齢者が安心して住み続けられる地域づくりのために、こういった医療構想の議論が活発になされている、そして具体的になされているというところに携わらせていただき、すごく心強く感じている。

【藤里町】

・当町は人口減少、高齢化非常に顕著な状況が続いており、森岳温泉病院に協力をいただきながら遠隔診療等について実証している。

・潜在的な医師不足は医療機関にとっては非常に重要な課題になっているので、役割分担について進めていただき、自治体としても財政面も含めて支援できるところを何とか模索していきたい。

【八峰町】

・地域住民から、能代の病院まで行く足がないというようなことをよく言われるので、その点も含めて解消できればと思う。

【島田病院長】

・当院も病床数が限られているので、出口の部分も非常に大事。

・施設への退院という点について、各地の包括支援センターやケアマネジャーの御尽力、のほか、各高齢者施設の標準化、事業所ごとの対応力にかなり差がある。

・せっかく退院しても、また再入院ということが起きている。

・なので、高齢者施設の基準の標準化も県が主導いただくと、当院から退院できる患者も増えていくと考えている。

・認知症の方で PTSD があっても適切な薬物療法が施されれば十分共同生活が可能になる方が一定程度いるので、そういった方の受け入れということ、出口の面も是非ご検討いただきたい。

【JCHO 秋田病院】

・仮に能代厚生医療センターが他の病院と統合し、急性期拠点と高齢者救急とか幅広く担う形があり得るとあるが、今回の診療報酬でいくと幅広く担うということができない形態になってきている。

・急性期病院は急性期だけといったような診療報酬体系になってきているので、国が本腰を入れて、しっかり役割分担をしないといけないという印象を受けている。

・なので、自然と役割分担がされていくのではと思っている。

【曾根アドバイザー】

- ・大塚先生が言ったように、目指す姿の実現に向けて、対策が必要だと思っている。
- ・県でどれぐらい担保してくれるのか、あるいは自分たちでやらなきゃいけないのかというところはきちんと示していただければと思っている。

(3)その他

【JCHO 秋田病院長】

- ・医療の未来を考えた時に、病床を減らすことに反対ではないが、災害的な地震とか津波よりも少し小さめの大雪というだけで病床が満床になって入院を待機させなければいけないことが結構あった。
- ・腰の圧迫骨折の患者を1週間ぐらい待機される状況が続いたので、ただ、病床を減らすという考え方で本当にいいのかと考えさせられたので、各病院に県として聞いてみたらどうですかという風に提案させてもらった。
- ・当地域は3病院の院長同士が風通しのいい関係を持ちながら、連携しているが、それでもやっぱり危機感を感じた。
- ・看護必要度や夜間の看護必要度を度外視して入院させたということもあって、病院の収入からすると減収であり、それを覚悟で入院させたという経緯もあるので、災害時のことも考えていかなければいけない。
- ・なので、余剰ベッドを持っているというのは意外といいのかも思ったり、今病床削減をしながら残っているベッドを災害用で活用したりといったことも思ったりしたところ。